

モンテ戦や棚田で演奏

山響 50年の軌跡 クロニクル

2017年9月、サッカーJ2・モンテディオ山形のホーム戦前、チームのアンセム(テーマソング)「Spirit of YAMAGATA」がスタジアムに響いた。ピッチ脇には山形交響楽団金管五重奏メンバーの姿。重厚な音色が試合前のムードを高め、選手入場時にはサポーターが歌う「Over the Rainbow」に音を重ねた。

スポーツチームとの連動には、飯森範親が常任指揮者に就いた当初から意欲を示していた。12年に協定を結んだ県スポーツ振興21世紀協会、山形食品(南陽)、

20 縁をつないで



モンテディオ山形の試合前、金管五重奏で会場を盛り上げる山形交響楽団のメンバー

＝2017年9月、天童市・NDソフトスタジアム山形

山形交響楽協会の3者で公募してアンセムを決定。同年にコンサートでお披露目し、スタジアムでの演奏はこの日が初めてだった。

「海外では地域でスポーツや音楽のチームが連携するのは当たり前。お互いのファンが応援し合えたらさらにうれしい」

生演奏の橋渡しをしたのが協定締結時に山形食品社長だった稲村和之だった。「農業、スポーツ、音楽の各分野がつながることで大きな力を発揮できるはず。稲村は11年から地元住民やモンテと共に山辺町大蔵の棚田再生にも取り組んでき

た。16年には「棚田で生演奏をできないか」と相談したのをきっかけに、山響も演奏に加え、稲刈りや田植え、「山響棚田米」の販売と、地域活動として協力していった。

小さな縁が新たな広がりを生んでいく。稲村は地域と山響の関わりについて「田んぼやスタジアムでプロの生演奏が聴けるという環境はなかなかない。他ではまねできないことに、汗を流してやっというところが山響の底力だ」と力を込める。

「互いに手を取り合って何かができる距離感。山形にはそれがあ」と井上は言った。 敬称略 (伊藤律子)

＝火曜日に掲載します



棚田をバックに演奏する山形交響楽団のメンバー

＝2018年9月、山辺町大蔵